

日 時	2025 年 3 月 8 日（土） 10：00 ～ 12：00 天候： 晴
場 所	湿地、2 階交流スペース

講座・活動名	湿地モニタリング調査 & 観察園全樹木調査 毎月第 2 土曜定例 (今回講師の都合で日程変更)
参加者	21 名 構成： 講師 2 名、(環境局 1 名) NTT 西日本関西支店 5 名、エコボラ 11 名、事務局 2 名
講師名	鈴木真裕（大公大）、北川ちえこ*（エコボラの場合氏名に*印をつける）
内 容	生き物調査、標本作製、データ入力、水質分析（報告書作成）
使用器材 資材・道具	(持参、借用等も含む) 鎌、pH 計、EC 計、ビーカー、標準液、蒸留水、洗ビン 調査用紙、ボード、バケツ、網、バット、スポイト、マイクロスコープ、PC
振り返り エコボラ通信に 掲載することが あります。	・先月数を減らしていたアメリカザリガニは、今回の 5 回すくいとりで、大 5 匹、小 5 匹が見つかり、特に 6mm 程度の小さいものが複数出てきたことで、また増えてくることが懸念される ・来月はいくつかの餌を用意して、もんどりを使用して駆除を試してみる予定 ・周囲の草は刈りこんであったが、さらに枯れたものを取り除いた ・およそ年 1 回実施している水質分析を行った。採水箇所は、中央部と給水口に近い場所の 2 か所で、採水後、pH も EC もほぼよい結果となった。あわせて観察園内の各所での採水、土壌採取を行い、分析も行った。 全樹木調査の準備 ・今月までは山のエリア工事のために、一般来園者がいないため、母屋周辺の樹木を対象に 29 本の計測を行った。 ・ウメなど 5m を超えない樹木が多く、スラントレベルではなく、ジャーマンメジャーで樹高を測定した。計測担当者は少人数だったが、容易に計測できた。
事務局への 伝達事項 次回案内等	

スタッフ氏名	活動内容	参加者氏名	活動内容
西田敏子	植物調査	NTT のみなさん	動物調査、樹木調査準備 5 名
木山正隆	植物調査	鈴木真裕	動物調査、標本整理
竹原秀樹	植物調査	北川ちえこ	植物調査、草取り
中谷憲一	昆虫調査	(環境局 武田)	植物調査、樹木調査準備
林耕太	植物調査	(事務局 新名)	器材・資料準備、撮影
鈴川博司	草取り、枝伐り	(事務局 村上)	器材・資料準備、撮影
栴元慶子	水質分析、撮影		
芝崎美世子	動物調査		
福川昇	動物調査		
渡辺喜代子	植物調査		
田中伸二	動物調査		

いずれかに○→(○)裏面に図面、写真等を添付した ()裏面なし ()詳細はファイルで提出

日 時	2025 年 3 月 8 日 (土)	記録者	榎元慶子
講座・活動名	湿地モニタリング調査		

湿地の状況 250308

給水中

水の濁りは底がやや見える程度

南方向 250308



北方向 250308



湿地の調査 250308



すくい採り 250308



すくい採り 250308

日 時	2025 年 3 月 8 日 (土)	記録者	榎元慶子
講座・活動名	湿地モニタリング調査		

湿地の生き物 250308



湿地の生き物 250308



日 時	2025 年 3 月 8 日 (土)	記録者	榎元慶子、中谷憲一
講座・活動名	湿地モニタリング調査		

湿地の生き物 250308



ヤバズエンドウ



ヨモギ



ヒガンバナ

湿地の生き物 250308

5回のすくいとりで、アメリカザリガニは10匹
大（3～6cm程度）5匹、小（6mm程度）5匹
来月はおもどりを使用して捕獲する予定



アメリカザリガニ



アメリカザリガニ

日 時	2025 年 3 月 8 日 (土)	記録者	榎元慶子
講座・活動名	湿地モニタリング調査		

湿地の生き物 250308



イトミズ亜科



ユスリカ科の一種

イトミズは、ざっと数百匹はいると思われる
ユスリカは、やっと出てきたという感じ
生態系ピラミッドの底辺のこれらの生き物が多く
なると、他の生き物の種類も増える

湿地の調査 250308

採水箇所は 2 か所

- ・中央部
- ・給水口の近い上流



残った枯れ草の刈り取りも実施

植物調査と動物調査 直前に採水も実施 250308

日 時	2025 年 3 月 8 日 (土)	記録者	榎元慶子
講座・活動名	水質・土壌分析・観察園全樹木調査		

水試料は自然体験観察園内 6 か所、土壌試料は同 3 か所で採取し、同日 pH、EC を分析した。pH はガラス電極式(KCl)のデジタル pH 計を、EC もポータブル導電率計を用いた。なお、土壌は、「土壌診断マニュアル～土壌測定診断室における分析法～（平成 19 年 1 月山口県農林水産部）」の、「第 2 土壌の簡易分析 1. 生土容積法」にしたがって行い、上澄液を試料として測定した。

水質・土壌分析結果 250308

*ガラス電極式(KCl)
**生土容積法

場所	pH*	EC mS/cm	備考
湿地中央部	6.2	0.15	やや濁っていた
湿地給水上流	6.4	0.19	給水量は少ない
水田B（常水）	7.1	0.23	クワイ・マコモ除去後
ため池（コウホネ）	7.3	0.15	コウホネ多数除去後
蓮田	7.1	0.21	鶏糞散布後
畑側溝たまり水	6.8	0.36	蓮田からの浸透水とボカシ堆肥からのしみ出しあり
水田D 土壌**	7.5	0.04	湿潤泥・ゲンゲほか発芽
畑 タデアイ土壌**	7.5	0.05	栽培中
畑 大阪しろな土壌**	7.5	0.02	栽培中

観察園全樹木調査 250308

母屋周辺の樹木を対象に29本を計測



スラントレベルを使用するかどうか検討しているところ
ウメが満開

5m以内であれば、ジャーマンメジャーで高さを計測



離れた位置から確認した後、下のゲージの読み取りを行う